

中国の文化大革命期における日本文芸の翻訳

謝, 帆

<https://hdl.handle.net/2324/6787689>

出版情報 : Kyushu University, 2022, 博士 (学術), 課程博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名 : 謝 帆

論 文 名 : 中国の文化大革命期における日本文学の翻訳

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

本論文では、文革期に政治イデオロギーの宣伝を達成するために翻訳された日本の文学作品とその原作との比較検討を通し、中国の内政、外交政策を分析しながら、中国側の日本の文学作品に対する解読に焦点を当て、10年間という長きにわたる文革期の中国における日本文学の翻訳実態を解明することを目指した。

本論文は、序章、本論、終章、参考文献、付録からなり、6章構成となっている。

第1章「序論」では、まず研究背景、先行研究、研究目的について述べ、そして博士論文全体の枠組みを示した。先行研究で残された課題を次の7つの研究設問に設定し、どのように文革期における日本文学の翻訳実態に接近するかを考えた。

①歴史的な観点と中国の対外政策の視点から、文革期の翻訳活動が政府の監視のもとに、どのように行われたか。

②文革期にどのような日本の文学作品が翻訳されたか。

③文革期の翻訳対象がどのような基準で選択されたか。

④各作品にどのような翻訳ストラテジーが採用されたか。

⑤日本の文学作品に対して、文革期の編集者や訳者がどの角度から解読しているか。

⑥翻訳テキストと原文テキストとの違いには、当時の中国の時代背景と社会状況がどのように作用しているか。

⑦政治イデオロギーを宣伝する翻訳活動において、賛助者、翻訳者、読者の立場が文革期にどのような役割を果たしたか。

第2章「文化大革命期の翻訳活動」において、まず文革期の政治背景という視座から、外国文学全体の翻訳事情を概観した。次に、「公開訳本」、「内部訳本」、「潜在訳本」という3つの刊行形式と、翻訳文学誌『摘译』に見られる文革期の大まかな翻訳方針を手がかりとして、文革期に翻訳された日本の文学作品を分類し、整理した。

第3章「文革期における日本文学の選択基準」においては、翻訳作品につけられた出版説明、前言、後記、及び評論などへの検討を行うことにより、文革期に翻訳対象として選択された日本の文学作品に共通する特徴と作品に見られる全体的な翻訳ストラテジーをまとめた。さらに、考察を多角的にするために、国情の異なるソ連、アメリカ、日本のどのような文学作品が文革期において翻訳対象となったかという比較の視点も導入した。

第4章「文革期における日本文学の翻訳ストラテジー——作品の分析を中心に——」において、文革期に翻訳された、「優秀なプロレタリア革命戦士・作家」と見做された小林多喜二の作品『沼尻村』、『不在地主』と『蟹工船』、「反動作家」と「右翼ファシスト」と位置付けられた三島由紀夫の作品『憂国』と『豊饒の海』4部作、認知症と老人介護の問題をテーマにした有吉佐和子『恍惚の

人』、木村琴美『穂波のゆくえ』、山田洋次・宮崎晃『故郷』、堺屋太一『油断!』などの日本の農業と石油問題を反映する作品、小松左京『日本沈没』、八住利雄『ノストラダムスの大予言』といった「科学幻想作品」、概要の形式で翻訳された結城昌治『不良少年』などを検討対象とした。作品の出版説明、前言などを検討しながら、翻訳テキストにおいて意識、省略、抄訳、増訳、削除などの翻訳方法が使われたか、翻訳テキストの形式と構成が原文テキストと一致しているかなど、原文テキストへの忠実性を分析した。さらに、翻訳テキストに見られる注釈を分析し、翻訳者が訳文の注釈に意図的に特別な意味づけをし、原作者が狙っていない効果を訳出したかという側面も考察した。

第5章「文革期における日本文学の翻訳作品に関わる人々」の中では、極めて高度に組織化された文革期の翻訳作業において、賛助者である政府機関の監視と管理を受けて、翻訳対象の選択から翻訳用語の使用まで、厳密な行動規範を遵守しなければならなかった訳者の境遇を検討しながら、彼らの翻訳時の思惑を推察した。また、当時の読者がどのようなルートで作品を入手したか、作品をどのように読み取っているかなどについて考察した。さらに、文革期において、翻訳作品を読む読者側と、原作を翻訳作品に再構築する賛助者、翻訳者側との相対的な関係を検討した。

第6章「結論」において、本研究の締めくくりとして、「序論」で提起した7つの研究設問に対して、一定の結論を与えた。

本論文は、文革期の日本文学翻訳に対して、検閲政策を中心に、当時の中国の内政と外交政策を分析しながら、文化大革命という特殊な時期の翻訳活動に焦点を当てる。政治イデオロギーと密接な繋がりを維持する文革期の翻訳行為の本質をより深く理解するために有意義だと考えられる。